

科学研究費助成事業（国際情報発信強化） 中間評価

課題番号	18HP1003	事業期間	平成30(2018)年度～ 令和4(2022)年度
取組の名称		団体名称	代表者名 (職名・氏名)
日本化学会発行論文誌の国際競争力強化		公益社団法人日本化学会	常務理事・澤本 光男
学術刊行物の名称			(略称)
Bulletin of the Chemical Society of Japan Chemistry Letters			BCSJ CL

【令和2(2020)年度 中間評価結果】

評価	評価基準
A+	当初計画を上回っており、かつ改善した評価指標による目標達成が見込まれる。
○ A	当初計画が達成されつつあり、今後の目標達成が見込まれる。
A-	当初計画より一部遅れは見られるが、概ね今後の目標達成が見込まれる。
B	今後の目標達成の見込みはあるが、経費の使用に問題があるため、経費の減額が適当である。
C	今後の目標達成が見込まれないため、取組の中止が適当である。
(評価意見)	
<p>日本化学会発行の2つの論文誌である Bulletin of the Chemical Society of Japan (BCSJ) 誌及び Chemistry Letters (CL) 誌における国際力の強化を目的として、以下の取組目標を掲げている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 審査・判定基準のさらなる厳格化</li> <li>2) 海外地域プロモーターの登用</li> <li>3) インパクトファクター値 5.0 の達成</li> <li>4) 論文 PDF ダウンロード数 15 万回の達成</li> <li>5) 被引用 0 回論文率 20%以下の達成</li> </ol> <p>これらの取組のうち、編集方針等の刷新が功を奏し、当初計画を達成しつつあるため、最終目標の達成も可能であると判断できる。</p> <p>一方で、2つの論文誌における指標（インパクトファクター等）の年次推移については、BCSJ 誌が既に最終目標まで達成しつつあるのに対し、CL 誌については下降傾向と対照的な変化を示している。この CL 誌の下降傾向に対し、団体は原因を解明しており、改善に向けた対策も進めているので今後期待できるものと判断した。</p> <p>なお、計画段階では欧米プロモーターへの対応も記載されているが、中間報告時点では中国プロモーターへの対応とその実績が主となっている。今後は、欧米からの引用、ダウンロード及び投稿数増加等にも取り組む必要がある。</p>	